

ウルトラマンマグナス

桂ヒナギク

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ウルトラマン、仮面ライダーといった特撮ヒーローが実在しない世界に、突如として怪獣が現れるようになった。怪獣との戦いで命を落としそうになった洋一の前に、彼は現れた。

目次

ウルトラマンマグナス

—
1

ウルトラマンマグナス

西暦二〇一八年。地球は怪獣騒動の温床と化していた。

これまで、怪獣は空想上の産物だとされてきていたが、半年前に突如と出現したのである。

怪獣は日本だけではない。アメリカ、中国、北朝鮮、はたまたロシアと、世界各地に出没していた。

国際連合安全保障理事会は、世界各地に防衛軍を設立。日々出現する怪獣に対して応戦を始めた。

地球防衛軍日本支部では、戦闘機や専用車を使って、空と陸から警戒に当たっていた。防衛軍日本基地では、パトロール中の戦闘機と無線で繋いでいた。

「異常はないか？」

「異常はありません」

「引き続きパトロールを続けろ」

「了解！」

戦闘機に搭乗しているパイロットの如月 洋一きさくちやういちは、航空自衛隊からチームに抜擢され

た優秀な隊員である。

「ん?」

洋一は地面が盛り上がりつつくるのに気づいた。

「なんだ?」

地上に怪獣が姿を現した。

「攻撃!」

洋一の乗る戦闘機から銃撃。怪獣にヒットさせる。しかし、怪獣は微動だにせず、破壊の限りを尽くす。

「だったら!」

怪獣の前に回り込んだ戦闘機からミサイルが放たれ、その眼球にクリーンヒットした。

「ぎゃああああああああ!」

怪獣が咆哮と共に、口から炎を吐いた。

戦闘機は火炎放射を受け、操縦不能になって落下していく。

「うわああああ!」

錐揉み状に落ちていく戦闘機の中で、洋一は思った。

(死ぬ!)

特撮ドラマのようにウルトラマンが実在すれば、洋一を助けてくれたであろうが、実に巨人などいるはずもなく。

刹那、はるか上空より、光の球体が飛来、戦闘機を包み込んだ。

「あ……？」

洋一の前に、色白に輝く巨人が現れる。その姿は、洋一が幼少期にテレビで見たウルトラマンにどこことなく似ていた。

「あんたは？」

「私はマグナス。私は君の自らを犠牲にしてこの星を守る姿勢に、共振する個性を感じた。君の力になりたい。君と一心同体になれば、私は一時的にこの地球で活動することができる」

洋一は、マグナスからマグナスパークというアイテムを渡された。

「それを使えば、君は一時的に超人に変身することができる。使ってくれ」

洋一はゴクリと唾を飲み込むと、マグナスパークを手に取り、左腕に当てがった。
スパーク！

赤、銀の二色の巨人、ウルトラマンマグナス出現。

マグナスは、受け止めた戦闘機を地上に置いた。

「デューワ！」

マグナスは怪獣に向かって構える。

怪獣が襲い掛かった。応戦するマグナス。

マグナス怪獣の攻撃を受け流して反撃。圧倒的なパワーでねじ伏せ、最後は光線でとどめを刺した。

光に包まれ、縮んで洋一の姿に変わるマグナス。彼の手にはマグナスパークが握られていた。